

光源氏のモデル

源融みなもとのおとつてどんな人？

源融は「源氏物語」の主人公「光源氏」のモデルといわれ、今から千百年以上も前、塩釜の融ヶ岡に邸宅を建て、そこから見える千賀ノ浦塩釜湾の風光明媚な風景をこよなく愛したといわれています。

光源氏が塩釜に住んでいた！

今から千百年以上も前、西暦八六四年の平安時代、中納言源融は陸奥出羽按察使あぜち（東北地方を監督する役職）を兼務しました（遙任といい、実際には赴任しなかったという説が一般的です）。

塩釜の風光明媚な御殿山と呼ばれる塩釜女子高周辺に、貴族の屋敷がありました。古文書のいい伝えでは、源融もそのそばの俗に「融ヶ岡」と呼ばれる塩釜高校のあたりに「融公邸（とおるこうてい）」として屋敷をかまえたといわれています。

そして、千賀ノ浦（塩釜湾）の風景をこよなく愛し、のちに、都へ帰つてからも、塩釜の景色が忘れられず、「塩釜」を模した「六条河原院」を造つたのです。

（鹽松勝譜 巻之一）



鹽竈神社の表参道
真向かいにある
融ヶ岡を示す碑



融ヶ岡の景色



源融（みなもとのとおる）

通称：河原左大臣（かわらのさだいじん）

- 弘仁13年(822) 誕生 父・嵯峨天皇 母・大原全子
承和5年(838) 源朝臣姓を賜る。正四位下(17歳)
嘉祥3年(850) 従三位(29歳)
斉衡3年(856) 参議(35歳)
貞観6年(864) 中納言、陸奥出羽按察使(あぜち)(43歳)
貞観8年(866) 「応天門の変」で源信と謀議があったと密告されるが無罪(45歳)
貞観12年(870) 大納言(49歳)
貞観14年(872) 左大臣(51歳)
貞観18年(876) }
元慶8年(884) } 門を閉ざして出仕せず
元慶8年(884) 陽成天皇の退位で即位を表明するが藤原基経に拒否される(63歳)
仁和3年(887) 従一位(66歳)
寛平7年(895) 8月25日死去。正一位追贈。「河原左大臣」と称される。(74歳)